

単位取得可能な講演一覧

日本リハビリテーション医学会および日本整形外科学会の単位は、一部の講演を除き現地参加のほか、2025年7月1日（火）から7月31日（木）までのオンデマンド配信でも取得可能です。下記表の※は現地でのみ単位を取得できます。

日本運動器科学会の単位は現地でのみ取得できます。

【6月12日（木）】

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
8:30~9:30	1	特別講演1		リハビリテーション医療を取り巻く環境変貌の認識とアカデミアとしての対応	安保 雅博	○		
	2	教育講演1		音声障害に対するリハビリテーション治療	平野 滋	○		
	3	教育講演4		運動器疾患の疫学アップデート：地域住民コホート研究ROADより	吉村 典子	○	1,13.Re	○※
	4	教育講演8		高齢社会の運動器リハビリテーション	高橋 謙治	○	1,13.Re	○※
	6	教育講演10		リハビリテーション医学と医工連携	池舘 充彦	○		
	9	教育講演16		Advance Care Planningのエビデンスと実践	森 雅紀	○		
	11	教育講演20		脳血管障害の歩行再建に対するリハビリテーション治療戦略	尾川 貴洋	○		
8:30~10:10	12	教育講演24		摂食嚥下機能の評価	松崎 美早	○		
	7	シンポジウム2	がんのプレハビリテーション最前線	消化器癌サルコペニアの腫瘍学的意義についての基礎的・臨床的考察とプレハビリテーションへの期待	木内 純	○		
				プレハビリテーションにおいてリハビリテーション科専門医に求められる役割	土方奈奈子			
				周術期患者のがん口コモ・フレイルとその対策	堅山 佳美			
9:40~10:40	1	特別講演2		人類の進化と文明史が示す二つの脳可塑性メカニズム	入来 篤史	○		
	4	教育講演9		末梢神経の再生医療	池口 良輔	○	8,13.Re	○※
	6	教育講演11		がん口コモの予防と治療—骨転移早期発見により生命予後は改善するか？—	篠田 裕介	○	5,13.Re	○※
	11	シンポジウム5	徹底討論 脳血管障害患者に対する歩行再建の治療戦略	片麻痺患者の歩行練習戦略とロボット活用の意義	平野 哲	○		
	12	教育講演25		脳からみた脳卒中患者の歩行再建	吉尾 雅春			
9:40~11:45	3	シンポジウム1	京都府が誇る百寿者の町「京丹後市」でのコホート研究最前線	摂食嚥下障害のリハビリテーション治療の基礎	藤谷 順子	○		
				京丹後長寿コホート研究と健康寿命促進因子	的場 聖明	○		
				MASLDをご存知ですか？新しい脂肪肝の概念とその対策	内藤 裕二			
				京丹後の高齢者の24時間動作行動から見た長寿の要因	新庄 浩成			
				地域在住高齢者のメンタルヘルスに影響する因子について	成木 迅			
				長寿者の口腔機能と口腔マイクロバイオーム	山本 俊郎			
				高齢者の摂食嚥下能力とフレイル：京丹後コホート研究の結果から	山脇 正永			
10:20~11:50	7	シンポジウム3	ボツリヌス療法の最善線	小児におけるボツリヌス療法の位置づけ	西村 淑子	○		
				当院における高齢者に対するボツリヌス療法	児玉 万実			
10:50~11:50	6	教育講演12		脳卒中後痙攣に対するボツリヌス療法と当院の取り組み	佐々木 庸			
	12	教育講演26		重複障害のリハビリテーション診療	伊藤 修	○		
12:05~13:05	1	ランチョンセミナー1		リハビリテーション科専門医のクリニック開業とその可能性	本田 祐士	○※		
	3	ランチョンセミナー2		動作分析データによる知能増幅に基づいたリハビリテーション診療	長谷 公隆	○※		
	4	ランチョンセミナー3		高度侵襲消化器外科手術におけるプレハビリテーションの取り組み	横山 幸浩	○※		
	5	ランチョンセミナー4		本邦の痙攣治療の現状—パクロフェン 髄腔内投与（ITB）療法の国内導入20年を迎えて—	根本 明宜	○※		
	6	ランチョンセミナー5		AIを活用した運動機能評価は診療をどのように変えるか？	田村 好史	○※		
	7	ランチョンセミナー6	ヒト（自己）骨髄由来間葉系幹細胞による脊髄損傷に対する治療戦略	脊髄損傷に対する骨髄由来間葉系幹細胞治療の現状	福士龍之介		1,7.SS※	
				脊髄損傷に対する再生医療におけるリハビリテーション医療	佐々木雄一			
13:40~14:40	1	会長講演		リハビリテーション医学・医療から学んだこと—医療従事者が持つべき精力善用・自他共栄の心—	三上 靖夫	○		

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
14:50～15:50	3	教育講演5		生成AI時代における研究と臨床のアップデート	牧 聡	○		
	4	特別講演5		理学療法士・日本理学療法士協会がリハビリテーション科医・日本リハビリテーション医学会に期待すること	斉藤 秀之	○		
	6	教育講演13		介護に展開する臨床力とは	酒向 正春	○		
	11	教育講演21		精神科理学療法法の洞察—認知症を含めての視点—	荒川 英樹	○		
	12	教育講演27		脳画像と機能連携	佐々木信幸	○		
16:00～17:00	2	教育講演2		脳卒中の機能回復—促進回復療法を基盤とした新たな片麻痺治療戦略—	下堂蘭 恵	○		
	3	教育講演6		リハビリテーション治療へのVirtual Reality (VR)活用—VRで何ができる?—	中原 康雄	○		
	4	特別講演6		作業療法士・日本作業療法士協会がリハビリテーション科医・リハビリテーション医学会に期待すること	山本 伸一	○		
	6	教育講演14		当研究所における高齢者のためのスマート住空間整備の取り組みの紹介	陳 隆明	○		
	9	教育講演18		顔面神経麻痺のリハビリテーション治療	仲野 春樹	○※		
	11	教育講演22		必ず役に立つ!リハビリテーション科医が知っておきたい「せん妄」の実践的知識	井上真一郎	○		
	12	教育講演28		脊髄・脊髄疾患のリハビリテーション診療に役立つ画像診断のポイント	川口 謙一	○	1,7,SS	
16:00～17:30	7	シンポジウム4	生活期リハビリテーション手法の標準コード開発の進捗と展望	リハビリテーション手法の新たな標準コードの実現可能性	佐々木信幸	○		
				生活期リハビリテーション手法の標準コードのFeasibility調査	木下 翔司			
				生活期リハビリテーションにおける標準コードの開発と使用に期待すること	上田 貴代			
17:10～18:10	1	特別講演4		みんなで考えるリハビリテーション医療の明日	大田 哲生	○		
	2	教育講演3		脳血管障害の予後予測の基本—臨床における活用—	道免 和久	○		
	3	教育講演7		メタバースが拓く新たな医療の可能性:メタバースで何ができる?	百崎 良	○		
	4	特別講演7		言語聴覚士がリハビリテーション科の医師やリハビリテーション医学会に期待すること	内山 量史	○		
	6	教育講演15		まちづくりとリハビリテーション医学・医療	近藤 克則	○		
	9	教育講演19		脳科学的知見に基づく新たなニューロリハビリテーションの合理的戦略	大林 茂	○		
	11	教育講演23		脳血管障害後のアパシーについて	服部 憲明	○		
	12	教育講演29		上下肢の画像診断における撮り方・診かたの基本	馬庭 壯吉	○	9,11	

【6月13日（金）】

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
8:30～9:30	1	特別講演8		地方創生に貢献するリハビリテーション医療	西村 行秀	○		
	2	教育講演30		人工内耳とコミュニケーション	白井 杏湖	○		
	5	教育講演35		有人宇宙開発とリハビリテーション医学・医療	山田 深	○		○※
	6	教育講演37		電気刺激療法—運動療法の代替的手段としての可能性—	松瀬 博夫	○	1,13,Re	○※
	7	教育講演39		加齢に伴う筋力低下のメカニズムとサルコペニア・フレイル予防の重要性	石井好二郎	○	1,13,Re	○※
	9	教育講演45		慢性呼吸器疾患に対する呼吸リハビリテーションのエビデンスと課題	東本 有司	○		
	11	教育講演53		脳卒中リハビリテーション診療再考—急性期・回復期・生活期のそれぞれについて—	角田 亘	○		
	12	専門医共通講習会1「医療安全(A)」		医師が知っておくべき院内転倒の知識と対策	佐藤 紀	○		
8:30～10:00	3	シンポジウム7	求められる専門医像とは?—各プログラムの実践から学ぶ—	突き抜けた専攻医を育てる—東京慈恵医科大学リハビリテーション医学講座の取り組み—	吉田健太郎	○		
				高齢社会における回復期リハビリテーション病棟での臨床教育の取り組み	上田 健人			
				Physician Scientistの育成を目指した取り組み	和田 彩子			
				神戸大学リハビリテーション科—先進的医療教育とつながりを重視したプログラムの実践—	原田 理沙			
	4	シンポジウム9	リハビリテーション専門職種が急性期でリハビリテーション科医に望むこと	次世代を担う若手医師と創るリハビリテーション科専門研修プログラム—日常診療をまるごと教育の場—to	沢田光思郎	○		
				理学療法士が急性期でリハビリテーション科医に望むこと	平田 和彦			
				作業療法士から急性期のリハビリテーション科医に望むこと—活動と参加に焦点をあてたMTDLPについて—	長谷川敬一			
				言語聴覚士が急性期でリハビリテーション科医に望むこと	栗飯原けい子			

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
9:40~10:40	1	特別講演9		リハビリテーション医療における活動向上の治療デザイン	大高 洋平	○		
	7	教育講演40		骨粗鬆症に対する運動療法	本郷 道生	○	4,Re	○※
	9	教育講演46		あきらめない呼吸リハビリテーション 頸髄損傷を中心に	土岐 明子	○		○※
	10	教育講演52		始めようe-sports！そこは障害のない世界ーリハビリテーション医療の新たな可能性ー	田中 栄一	○※		
	11	教育講演54		リハビリテーション診療におけるリスク管理	山内 克哉	○		○※
	12	専門医共通講習会2「医療倫理(A)」		高齢者医療における倫理的ジレンマと臨床倫理	大野 綾	○		
9:40~11:40	5	シンポジウム11	宇宙医学とリハビリテーション医学	国際宇宙ステーション (ISS) 長期滞在の宇宙医学とリハビリテーション医学	速水 聡	○		
				宇宙飛行士支援における理学療法士の役割	門馬 博			
				宇宙リハビリテーションへの関り研究者の立場から	増澤 諒			
				宇宙と地上での姿勢制御ー複数の筋の協調性に着目してー	萩生 翔大			
	6	シンポジウム14	電気刺激療法の進歩	酸化ストレスを介した無重力や寝たきりによる筋代謝異常の分子メカニズム	二川 健	○		
				リハビリテーション医療における手指麻痺用の電気刺激装置の活用	浅見 豊子			
				ベルト式骨格筋電気刺激法の展望と課題	緒方 徹			
				随意運動介助電気刺激療法の進歩ー装着型随意運動介助電気刺激療法を中心にー	前田 博士			
10:10~11:40	4	シンポジウム10	三位一体で考えるこれからの急性期リハビリテーション診療のあり方	脳卒中片麻痺に対する神経筋電気刺激による治療戦略	松元 秀次	○		
				チーム医療の要としてのリハビリテーション科医の役割と葛藤	酒井 康生			
				オンライン患者教育を活用した関節リウマチのリハビリテーション診療	佐々木信幸			
				運動療法と栄養療法	西山 一成			
10:50~11:50	1	特別講演10		患者の人生を好転化する包括的リハビリテーション診療	尾川 貴洋	○		
	7	教育講演41		リハビリテーション医療を改革しよう	武久 洋三			
	9	教育講演47		オンライン患者教育を活用した関節リウマチのリハビリテーション診療	三浦 靖史		6,13,R	○※
	11	教育講演55		地域における呼吸リハビリテーション	岡崎 達馬			
	12	専門医共通講習会3「感染対策(A)」		専攻医のための身体障害者手帳診断書・意見書(肢体不自由)記載の心得	八幡徹太郎		13,Re	
12:05~13:05	1	ランチョンセミナー7	地域医療に貢献するリハビリテーション診療	日常診療における感染対策	宮越 浩一	○※		
	3	ランチョンセミナー8		超高齢化社会に貢献するリハビリテーション医療	中村 健			
	5	ランチョンセミナー9		地域において活動を育むリハビリテーション医療	美津島 隆			
	6	ランチョンセミナー10	装着型随意運動介助電気刺激療法のコンセプトと有用性	DXが拓くリハビリテーション医療	大高 洋平	○※		
	7	ランチョンセミナー11		リハビリテーション医学・医療におけるトレッドミル訓練の有用性	向野 雅彦			
	8	ランチョンセミナー12		装着型随意運動介助電気刺激のコンセプトと原理	村岡 慶裕			
	9	教育講演48	小児のリハビリテーション医療の特性と課題ー本州最北端で考えていることー	装着型随意運動介助電気刺激(Wearable Integrated Volitional control Electrical Stimulation: WIVES)療法の有用性	前田 博士	○※		
	11	教育講演56		上下肢痙縮に対するボツリヌス治療の歴史と未来	正門 由久			
13:15~14:15	1	特別講演11		リフトと装具がつなぐ自立への架け橋	沢田光思郎	○		
	3	特別講演15		睡眠の謎に挑む: 基礎研究から睡眠ウェルネスへ	柳沢 正史			
	4	教育講演31		リハビリテーション医療において人間とAIはどういう関係になるか	松原 仁			
	5	教育講演36		EBMの原点からその先へ: 共同意志決定のススメ	中山 健夫			
	7	海外招待講演(ビデオ講演)1		心臓リハビリテーションのサイエンス	佐田 政隆			
	9	教育講演48		Acute Traumatic Spinal Cord and Cauda Equina Injuries (ATSCCEI) — Models of Service Delivery — Methods of Management and Evidence Based Outcomes —	Wagih Shafik El Masri		7,13,SS	
	11	教育講演56		小児のリハビリテーション医療の特性と課題ー本州最北端で考えていることー	青木 恵		3,13,Re	○※
	12	専門医共通講習会4「医療制度と法律(B)」		リンパ浮腫のリハビリテーション診療	尾関 恩			
13:15~14:45	6	シンポジウム15	柔道とリハビリテーション医学・医療との接点	医師が知っておくべき医療制度・法律について	松嶋 康之	○		
				柔道による頭部外傷の撲滅をめざした取り組み	永廣 信治			
				柔道による外傷・障害とリハビリテーション治療	宮崎 誠司			
				柔道を活用した転倒予防	紙谷 武			
				五輪チームドクターの役割と実際	井汲 彰			

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
14：25～15：25	1	特別講演12		柔道一直線から難病の治療法開発に取り組む	和泉 唯信	○		
	3	特別講演16		DXとリハビリテーション医療との共栄	石川 賀代	○		
	4	教育講演32		スライドデザインのススメ	小林 啓	○		
	7	教育講演42		脊髄損傷後の社会復帰の第一歩—自宅復帰と復職へのアプローチ—	林 哲生	○	7,13,SS	○※
	9	教育講演49		神経発達症のリハビリテーション診療—小児発達外来の現場から—	鈴木 理恵	○		
	11	教育講演57		慢性疼痛への対処—リハビリテーション医療の重要性—	矢吹 省司	○	1,13,Re	
	12	専門医共通講習会5 「地域医療(B)」		超高齢社会における地域医療構想のなかですすめる多職種協働	川上 寿一	○		
14：25～15：55	5	シンポジウム12	心不全のリハビリテーション治療について多面から考える	心大血管疾患患者におけるフレイルおよびサルコペニアへの対策	井澤 和夫	○		
				遠隔での心臓リハビリテーションの実際	横山 美帆			
				心不全患者の遠隔モニタリングの有用性の検証	白石 裕一			
				回復期リハビリテーション病棟における心臓リハビリテーションの普及と問題点	牧田 茂			
14：55～15：55	6	教育講演38		JRAT：その果たすべき役割とR6年能登半島地震災害後に見えてきた課題	栗原 正紀	○		
15：35～16：35	1	特別講演13		希少疾患である骨軟部腫瘍に対する総合的リハビリテーション診療：神経線維腫症1型	西田 佳弘	○	5,13,Re	
	4	教育講演33		臨床研究のすすめ	福岡 真悟	○		
	7	教育講演43		脊髄損傷治療の最前線について—2025年の今、目の前の患者さんにできること—	松本ハーマン聡子	○	7,13,SS	○※
	9	教育講演50		筋ジストロフィーのリハビリテーション治療	石川 悠加	○		○※
	11	教育講演58		難病のリハビリテーション診療について	中馬 孝容	○		
	12	専門医共通講習会6 「医療福祉制度(B)」		社会保障制度改革における医療福祉制度—特に障害者総合支援法について—	栗林 環	○		
15：35～17：35	3	シンポジウム8	未来型リハビリテーション医療の実践	運動器リハビリテーションにおけるAI・DXの活用と開発	青山 朋樹	○		
				先進技術のリハビリテーション医療への実践と効果—当院に先進リハビリテーション推進室を設置して—	白坂 智英			
				ニューロリハビリテーション治療における先進技術の臨床展開	宮井 一郎			
				AIとDXがもたらすリハビリテーション医療の未来	黒田 知宏			
16：05～17：35	6	シンポジウム16	震災時にリハビリテーション関連職はどう動くか	令和6年能登半島地震におけるJRAT活動から見えてきた課題と今後の取り組み	松下 功	○		
				災害時にリハビリテーション科医・リハビリテーション関連職はどう動くか	近藤 国嗣			
				令和6年能登半島地震における富山JRATの支援活動について	吉野 修			
16：45～17：45	4	教育講演34		臨床研究のための統計学の基本知識	新谷 歩	○		
	7	教育講演44		脊髄損傷者の排尿管理	高橋 良輔	○	7,13,SS	
	9	教育講演51		成長する子どもたちの可能性を広げる義肢装具療法	藤原 清香	○	3,13,Re	○※
	11	教育講演59		神経筋疾患のリハビリテーション診療について（神経免疫疾患を中心に）	和田 直樹	○		
	12	専門医共通講習会7 「臨床研究・臨床試験(C)」		臨床研究への誘い—日常の疑問を探索し、学問を深める基礎と実践—	遠山 将吾	○		

【6月14日（土）】

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
8：30～9：30	1	特別講演17		運動器腫瘍とリハビリテーション治療	尾崎 敏文	○	5,13,Re	
	2	教育講演60		失語症者の社会参加について 八王子失語症サロン・ベチカからのメッセージ	東川 麻里	○		
	3	海外招待講演 (ビデオ講演)2		Exercise as Medicine in a Translational Perspective — Focus on Myokines —	Bente Klarlund Pedersen	○	1,13,Re	
	6	教育講演63		世界基準の低栄養診断—GLIM基準を理解する—	吉村 芳弘	○		
	9	教育講演68		少年野球肘検診—スポーツ医学における精力善用・自他共栄—	松浦 哲也	○	2,9,S	○※
	11	教育講演73		膝関節疾患のリハビリテーション診療	津田 英一	○	12,13,Re	○※
	12	指導医講習会3		臨床研究と論文公表の進め方—ラフ・スケッチ—	小山 哲男	○		
	14	教育講演83		苦手を克服！上肢装具療法入門	山口 朋子	○※	9,10,Re※	○※

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
8:30~10:00	4	シンポジウム19	リハビリテーション専門職種が回復期でリハビリテーション科医に望むこと	理学療法士が回復期でリハビリテーション科医に望むこと	加邇 憲人	○		
				回復期リハビリテーション病棟での作業療法士の役割について—リハビリテーション科医に望むこと—	高橋 啓吾			
				言語聴覚士が回復期でリハビリテーション科医に望むこと	重川 由香			
	5	シンポジウム24	人工関節の現在とリハビリテーション治療	人工肩関節の現在とリハビリテーション治療	泉 仁	○		
				手関節・手指の人工関節とリハビリテーション治療	児玉 成人			
				人工股関節全置換術の現在とリハビリテーション治療	上島圭一郎			
				ロボットおよびウェアラブルセンサーを活用した人工膝関節置換術周術期リハビリテーション治療	稲垣 有佐			
				人工足関節置換術のリハビリテーション治療	神崎 至幸			
9:40~10:40	1	特別講演18		Neuromodulationのリハビリテーション医学への応用	藤原 俊之	○		
	3	教育講演61		運動生理学とリハビリテーション医学・医療について	上條義一郎	○	1,13,Re	○※
	6	教育講演64		リハビリテーション治療における栄養管理	若林 秀隆	○		
	9	教育講演69		下肢のスポーツ外傷・障害に対するリハビリテーション治療	新井 祐志	○	2,12,S	○※
	11	教育講演74		股関節障害に対するリハビリテーション診療	坂井 孝司	○	11,13,Re	○※
	12	教育講演79		介護労働者の腰痛管理—基礎知識から対策まで—	長江 将輝	○	7,13,Re	
	14	教育講演84		脳卒中のリハビリテーション治療における下肢装具療法入門	鍵山 智子	○※		
10:10~11:40	4	シンポジウム20	回復期リハビリテーション病棟の25年—総括と未来への挑戦—	回復期リハビリテーション病棟25年の歩み	三橋 尚志	○		
				回復期リハビリテーション病棟を牽引するリハビリテーション科医師	岡本 隆嗣			
				回復期リハビリテーション病棟における新米病棟医長の働き方	中西 健太			
				回復期リハビリテーション病棟で感じた、リハビリテーション診療の魅力	浅野 晴香			
				回復期リハビリテーション病棟で展開される革新的医療の可能性	宮井 一郎			
	5	シンポジウム25	関節リウマチに対するリハビリテーション治療update	関節リウマチにおけるサルコペニア/フレイル治療と身体活動	遠山 将吾	○		
				関節リウマチに対するリハビリテーション治療update	高窪 祐弥			
				関節リウマチによる手関節・手指障害に対するリハビリテーション治療up to date	那須 義久			
				関節リウマチ足部病変が身体機能に与える影響	原 良太			
	7	シンポジウム30	地域を元気にするリハビリテーション医療	地域を元気にするための那智勝浦町立温泉病院におけるリハビリテーション医療	坂野 元彦	○		
				地域で生きる 地域と生きる 医療法人久仁会の取り組み	山上 敦子			
				地域を元気にするリハビリテーション医療：健康医療福祉都市構想	酒向 正春			
10:50~11:50	1	特別講演19		ジェンダー平等をめぐる日本の課題	林 陽子	○		
	3	教育講演62		概日リズムとサルコペニア：発症予防へのインパクト	八木田和弘	○		
	6	教育講演65		誤嚥性肺炎に対する包括的アプローチ	高島 英昭	○		
	9	教育講演70		腰部スポーツ障害におけるリハビリテーション診療の意義	酒井 紀典	○	7,13,S	○※
	11	教育講演75		アスリートの腰痛とアスレティックリハビリテーション	西良 浩一	○	7,13,S	○※
	12	教育講演80		リハビリテーションセンターにおける就労支援と産業医の関わり	菊地 尚久	○		
	14	教育講演85		家屋評価—その目的と押さえておくべきポイント—	堀田富士子	○※		
12:05~13:05	1	ランチョンセミナー13		痙縮に対する複合治療	安保 雅博	○※		
	3	ランチョンセミナー14	高齢者の健康を支え暮らしに寄り添うために—京都での取り組み—	高齢者の健康を支え暮らしに寄り添うために—1次・2次・3次予防を含めたりハビリテーション医療の実践— 高齢者の健康を支え暮らしに寄り添うために—京都での課題と取り組みについて—	森原 徹 三上 靖夫	○※		
	4	ランチョンセミナー15		仮想現実技術を用いたリハビリテーション治療の最前線：医師とセラピストが知るべき最新エビデンス	原 正彦	○※		
	5	ランチョンセミナー16		拡散型圧力波のリハビリテーション治療領域での活用時の注意点	緒方 徹	○※		
	6	ランチョンセミナー17		リハビリテーション医学・医療における漢方薬の役割	佐浦 隆一	○※		

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	※は現地のみ		
						リハ単位	日整会単位	運動器単位
13:10~14:40	4	シンポジウム21	リハビリテーション専門職種が生活期でリハビリテーション科医に望むこと 作業療法士が生活期でリハビリテーション科医に望むこと 生活期リハビリテーションにおけるリハビリテーション科医と言語聴覚士とのICFに基づいた協働	リハビリテーション専門職種が生活期でリハビリテーション科医に望むこと	田中 恭子	○		
				作業療法士が生活期でリハビリテーション科医に望むこと	澤潟 昌樹			
				生活期リハビリテーションにおけるリハビリテーション科医と言語聴覚士とのICFに基づいた協働	亀井 編			
13:15~14:15	1	特別講演20		がんリハビリテーション診療とチーム医療	酒井 良忠	○	5,13,Re	
	2	特別講演24		地域共生社会とは何か	野澤 和弘	○		
	3	特別講演25		介護保険制度におけるリハビリテーション医療への期待	堀 裕行	○		
	5	指導医講習会1		専攻医に選ばれる組織・教育について	三上 幸夫	○		
	7	教育講演66		生活期の高齢者に対する活動・参加を促進するために	川手 信行	○		○※
	9	教育講演71		音楽家医学とリハビリテーション治療	酒井 直隆	○	10,13,Re	○※
	11	教育講演76		スポーツに対するリハビリテーション治療—足の機能回復をめざして—	熊井 司	○	12,13,S	○※
	12	教育講演81		復職に向けた自動車運転再開支援の基本と課題	加藤 徳明	○		
	14	教育講演86		リハビリテーション科医が知っておくべき薬剤の知識について	小瀬 英司	○※		
14:25~15:25	1	特別講演21		骨粗鬆症とリハビリテーション医療	宮本 健史	○	4,13,Re	
	3	特別講演26		キリンは肩がこるのか?—比較解剖学から迫るキリンの進化—	郡司 芽久		1,9	
	5	指導医講習会2		指導医が専攻医を合格に導くために:専門医認定試験における症例報告を指導するポイント	山中 義崇	○		
	7	教育講演67		考察:地域医療におけるリハビリテーション医療の役割・位置づけ—私論:“救急車とリハビリテーション”—	栗原 正紀	○		
	9	教育講演72		音楽療法とは何か	北脇 歩	○		
	11	教育講演77		リウマチ手外科のリハビリテーション治療	秋田 鐘弼	○	6,13,R	○※
	12	教育講演82		働く人のメンタルヘルス	富永 敏行	○		
	14	教育講演87		歩行分析入門 臨床, 研究に役立てるために	畠中 泰彦	○※		
14:45~16:15	4	シンポジウム22	生活期のリハビリテーション医療・支援の視点を持った医師を育てるために(To develop physicians with a perspective on rehabilitation medicine and support during the life stage)	日本生活期リハビリテーション医学会研修委員会の立場から	菊地 尚久	○		
				大学での生活期リハビリテーション医療・支援教育(卒前・卒後)の立場から	三上 幸夫			
				「本来のリハビリテーション医学の考え方を実現する場=生活期」のおもしろさを伝える	和田 真一			
				地域医師会との連携の立場から	堀田富士子			
	6	シンポジウム27	誤嚥を防ぎ、いつまでもおいしく食べるために 1	生活期リハビリテーション—有床診療所での研修—	佐久間香那	○		
				嚥下のしくみ(嚥下関連器官の解剖と生理)	杉山庸一郎			
				摂食嚥下障害の診断	國枝頭二郎			
				嚥下機能改善のためのPDCAサイクルによるリハビリテーション治療の戦略	稲本 陽子			
15:35~16:35	1	特別講演22	誤嚥を防ぎ、いつまでもおいしく食べるために 1	嚥下の外科治療—いつ、どのように手術に踏み切るか?—	藤本 保志	○		
				上手なコミュニケーションの取り方	森中 慎也			
				肩関節疾患に対するリハビリテーション診療	森原 徹		9,13,Re	○※
				臨床医が知っておくべき治療と仕事の両立支援	豊田 章宏			
15:35~17:35	3	シンポジウム18	男女共同参画委員会企画:リハビリテーション診療のリスクリテラシー	リハビリテーション医学の臨床・研究に役立つ!みんなの電気生理学的診断	蜂須賀明子	○※		
				キャリアチェンジ:いつかつながる未来への一歩	藤田 彩香			
				開業医として障がい児を取り巻く社会の変革をめざす私のリスクリテラシー	多和田 忍			
				アカデミア発ベンチャー起業の経験から見えるリハビリテーション医療の広がり	川上 途行			
16:20~17:45	4	シンポジウム23	本音で語ろう!フェーズ間のより良い連携を目指して	急性期, 回復期, 生活期のリハビリテーション医療の連携:急性期医療に関わる立場からの考察	上條義一郎	○		
				回復期リハビリテーション病棟における前方連携・後方連携の課題と展望	菅原 英和			
				生活期リハビリテーションと急性期・回復期医療との連携	高岡 徹			
	6	シンポジウム28	誤嚥を防ぎ、いつまでもおいしく食べるために 2	摂食嚥下診療における体制整備とスタッフ教育:普及実装のための戦略	百崎 良	○		
				摂食嚥下診療における診療報酬改定の現状と今後の課題	井口はるひ			
16:45~17:45	1	特別講演23		リハビリテーション医学は予防医学に有用か?	佐伯 覚	○		
	12	専門医共通講習会9「医療経済(B)」		医療経済・政策の動向	今中 雄一	○		
	14	教育講演89		義手・義足入門—リハビリテーション科医の基本スキル—	大串 幹	○※	13,Re※	○※